

今日的課題・モール研究

第17条6 モールのスクラムへの移行について内容が明確になりました。

5秒に限定されることによってゲームが向上する、即ち展開継続が促進されよりスピーディでより楽しいラグビーになるという意図が生かされていません。

モールの機能が十分に発揮されていません。そこでモールのルールを、ボールを持っている側には展開継続を促し、相手側にもモールの機能を見直させて、早目の防御のリスクを着目させ、結果的には攻撃側の展開スペースを確保することによって、継続プレーとしてのモールの機能を十分に発揮させようというものです。ルールの基本精神と3つの原理を踏まえて考察すべきであり、早い防御をなくすためと簡単に考えてはいけません。モールは前進に失敗してもその失敗を失敗とせず、直ちに攻撃を生み出して継続していくのがモールの働きであって、いわばモールはカタパルト（発射台）です。

ボールを持っている側は、モールが停止したら責任を問われるまでの時間が長くなったと思います。逆にモールまたはボールの動きがゆっくりになったように思われます。ルールの意図するものは、展開継続の促進であって、発射の準備に5秒という限定は短い時間と考えねばなりません。そこで意識的能動的にモールを形成し、またそうすることによって、モールが形成されたら即123と拍子をつけて積極的にドライビングまたはボール移動を開始して5秒を有効に使う練習をしなければなりません。無意識にモールになってしまったからソレカラというのでは遅いのです。

相手側にとって5秒は以前より長い時間となるでしょう。モールが形成されると同時に防御に回ろうとすると、一旦止まっても5秒以内に、再び前進かボールの移動が始まるかもしれないのですから、モールに一人でも多く参加しなければ容易に前進を許すことになり大きなリスクを背負うことになりかねません。モールを適当にして、防御に先回りしようという安易な考えは通用しないのです。

Remember!

R/M should be viewed as failures, keeping going forward.....

続いて when to ruck or maul という問題があり、それからラックやモールそのものをどのように組むかという問題になるわけですが、大事なことが未整理で未解決のまますすめられていると言わざるを得ません。

ラックとモールは、ボールが地上にあるかどうかの相違はあっても、作用と目的は基本的には同じですが、when to ruck or maul（何時ラックとしそれともモールとするか）という課題があります。捕まったら簡単に倒れてラックになり、倒れなかったらモールになるというだけではいけません。目的意識がないままに単なる組打ちになってしまっています。RUGBY WORLDより参考資料を引用しましょう。

It is unfortunate to hear a side say that they are rucking side or that they are a mauling side. There are many situations of ball-getting in a match when one would logically ruck or one would logically maul, and a side must decide instantly what is required for each situation. Fortunately, most of the general principles required are the same for ruck and maul.

The main difference between the ruck and the maul

1. On approaching the focal point for the ruck use outstretched arms - wide shoulders
for the maul: burrow in for the ball - narrow shoulders
2. Body position
for the ruck: all backsides end up facing their own half-backs
for the maul: some backsides will be facing opposition, in particular the initial ball-carrier.

3. Going beyond the ball

for the ruck: the focal point with the ball will be by-passed and left

for somebody to pick up

for the maul: the focal point with the ball will be by-passed, bound on and blacked off only if the area is heavily populated. As the ball is played wider, the focal point is then driven into by the first man.

以下ラックモールそのものになりますが割愛して、上記の理論を整理しましょう。

前の位置ではラック。前進態勢にあるときはラック。全員前進態勢で前進力があるところでさらに前進してボールを後に残す。ボール核に長方形に。

後ろの位置ではモール。止まっているときはモール。ボールキャリアーもサポーターも後ろ向きになっていることも。ボール核に三角錐に。前進力はないが、生み出す driving maul。フリル（ひだ）のワインディング。ボールを地上に置く（落とす）ことでハンドラックへ。

モールは継続プレーです。モールが止まった状態で笛が吹かれスクラムになるのを避けねばなりません。ゲームを楽しむために双方が心がけるべきことを実践しましょう。

最後に、「5秒」限定の意図から今後の問題を考えましょう。

- (1) 積極的展開継続意識が向上し実践されることによって、スクラム移行の減少即ちゲーム展開継続のレベルがあがりスピーディになってラグビーがより面白くなる。
- (2) 攻撃スペース拡大は継続を促進するとともに攻撃の幅が広がりより面白くなる。
- (3) 一方、フィットネス向上とともに腕の筋肉発達し、腕力がプレーに大きく作用するようになってきていますが、その傾向が一層強くなる。余談になりますが、ここ10年サッカーが非常に面白くなり、ファンも著しく増加したのは、ゲームがスピーディになったことと、身体と身体の接触が真剣（激しく）になり、激しい hustle（押す）play がゲームの緊迫感を盛り上げ感動を呼んでいるからとすることができます。イタリアのコーチが中田選手の上肢の強さからくる接触プレーの強さを誉めている記事がありました。興味ある内容です。
- (4) 身体の小さい、ということは腕の短い日本人にとっては腕力で争うことは不利なことです。ただ必死で当たるというのではなく、フィットネスに努めボディコントロールとボールコントロールの技量の向上について意識的に努力する必要があります。
- (5) 「ゲームが free or fluid（不定型で流れができる）になったら判断力が鈍り動きが悪くなる」という指摘を克服する絶好の材料と受け止めて、プレー改善に努めることによって、よく走れるタフなプレーヤーを育てて飛躍を図るべきでしょう。

2001.11.10
西川 義行